

東日本大震災で起きた問題行為

2011年3月11日、予想も出来なかった大地震、津波が、東日本を襲いました。

過去の問題ですが、東日本大震災の後、被災地だけでなく、日本全国で、いろいろな問題行為が起きていました。今回は、その問題になったことを振り返っていきます。

1. 被災地で発生していた問題行為

- ・震災直後の、まだ救援物資が全く届かない時期には、食料不足から、後から避難所にやって来た市民を追い出そうとする行為も出始めていた。
- ・宮城県仙台市では、一般家庭において地震で壊れた「震災ごみ」の回収を行っているが、それに便乗して、(震災とは関係のない)「通常ごみ」「事業ごみ」「危険物」などを持ってくる人が出ていた。
- ・地震後には精神的な面で被害をこうむってしまったため、それが問題行為を起こす原因となっている場合がある。4月9日には千葉県市原市の男性が精神的に不安定になったため自宅に火を放って自殺している。また、内閣府の調査によると、震災関連の自殺が6月だけで16人に上っていた。

このように、被災地の中では、いろいろな問題行為が起きましたが、被災地外でも、いろいろな問題行為が起きました。

2. 被災地外で発生した問題行為

① 買い占め

地震に関連して、買い占め問題が発生した。非食料品は主に乾電池・ティッシュペーパー・トイレットペーパー・紙おむつ・ガソリンなど、食料品では、飲料水・米・カップラーメン・缶詰・納豆などである。

水は、放射性ヨウ素汚染問題の影響も加わり、需要が急増した。これに対し、母子手帳を提示した客に、優先して水を販売するスーパーマーケットも出ていた。



品物によっては売り切れる物もでていた。

② 放射能関連

福島県から避難した人は放射線を浴びている（被曝している）恐れがあることから、「いじめ」という形で嫌な思いをさせられている子供が存在した。

放射線被曝が原因で元気な子供が生まれなくなるという懸念から、福島県出身者の結婚が破談になっていた。

③ 古着問題

震災の後、被災地で、服が足りなかったのもので、全国から「未使用のもの」で服を集めたが、その中には、古着が混じっていたりした。

④ 帰宅困難者

東日本大震災発生日、首都圏では多くの鉄道機関が一晩ストップし交通機関が混乱し、帰宅困難者が多数でた。

このように、東日本大震災が発生してから被災地、被災地外と、問題行為が多数起こりましたが、この大震災後の復興は、少しずつ、より良い方向に、進んでいます。

——**復興のためには、何が必要か。**

僕がこの震災の復興に必要なと思うものは、努力だと思います。たとえば、福島県などの地震の被災地であるところの農産物や水産物を積極的に買ったり、そこで旅行するなどをして被災した県にお金をまわらせれば、被災した県の復興がよりよく進むと思います。